

山形分子疫学コホート研究通信 Vol. 2

Contents

- 1, 2012年コホート管理ユニットの主な活動
- 2, 本研究のベースライン調査報告
- 3, ちょっとしたコラム～がんにならない食べ物
- 4, ゲノムコホート医学教育プログラム
～ベースライン調査に参加して
- 5, 資料のご請求と問い合わせ
- 6, 編集後記

いよいよ冬本番を迎える時期になりました。皆様、いかがお過ごしでしょうか。今年には6月に同意者数が10000人を突破するなど、私たちの活動も多くの方に支えられ、ここまで来ることができました。心より感謝申し上げます。
山形分子疫学コホート研究通信(コホート通信)も、第2号の発行となりました。ご協力いただいた皆様方に研究のご報告をお送りします。

2012年コホート管理ユニットの主な活動

祝！研究協力者が10000人を突破！

2009年度より開始した「山形分子疫学コホート研究」において、今年6月12日(火)、ついに研究協力者数は10000人を突破しました(2012年11月9日現在13847人)。

開始から3年という短い期間で、10000人にご協力をいただけるのは、この種の研究では大変難しいことです。

医療の発展のため、多くの山形県民の方々から研究協力を

いただきました。一日でも早く結果が出せるよう、また山形の未来の医療のため、ますます研究にまい進したいと、スタッフ一同決意を新たにしています。



ゲノムコホート医学教育プログラムが始まりました

現在山形県内で行われているゲノムコホート研究は、今後のオーダーメイド医療の実現に大きな役割を果たすこととなります。しかし、研究内容を含め、これらの研究成果を社会または医療の現場で応用できる人材がまだまだ足りないのが現状です。

そこで、山形大学では、この学問領域を実用化までつなげるために、「学生・大学院生」「ポストドクター」「社会人」を対象とした教育プログラムを立ち上げることになりました。

今年には帝京大学大学院より2名の大学院生がゲノムコホート研究を「体感」するため、短期の実習プログラムに参加、また学部生5名も実

習としてベースライン調査に参加しました(最終ページのゲノムコホート医学教育プログラム～を参照)。

また、学部前教育の一環として、県内の高等学校を中心に出張講義などを行い、オーダーメイド医療に携わる人材育成のための裾野を広げる活動も行っています。



県内高等学校で出張講義を行いました

ゲノムコホート医学教育プログラムの一環として、県立鶴岡南高等学校と県立酒田西高等学校において、成松宏人准教授が、高校生を対象として出張講義を行いました。

9月26日(水)に行われた鶴岡南高等学校では、主に医学部への進路を考える高校生を対象に「医学医療のパラダイムシフト～未来の(個別化)医療」を考えよう」と題して、講義を行いました。参加者は自分の将来と重ねあわせ、真剣な表情で話に聞き入っていました。また、10月11日(木)に行われた酒田西高等学校での講義では、「高校生のストレスーやっかいだけに必要な存

在!?」と題して、高校1年生約200名を対象に講義を行いました。酒田西高等学校では、事前に参加に対して、自身が抱えるストレスやストレス解消法などのアンケート調査を行い、アンケート結果から高校生に起こりやすいストレスとその対処方法などについて、医学的な視点でお話しました。



2012年 酒田市内でシンポジウム開催

2012年3月17日(土)、酒田市民健康センターにおいて、市民シンポジウム「庄内から発信するオーダーメイド医療」を開催しました。

昨年5月に開設された山形大学先端分子疫学研究所酒田分室の開設記念として開催された今回のシンポジウムは、あいにくの天候にも関わらず、約80名の参加がありました。

今回は、酒田分室がある日本海総合病院との共催で開催され、山形大学医学部からは先端分子疫学研究所の成松宏人准教授が「地域から発信するオーダーメイド医療」と題して、コホート研究について

説明したほか、内科学第一講座集中治療部の市川一誠助教が「循環器・腎臓におけるオーダーメイド医療」、そして、日本海総合病院からは、陳正浩外科部長が「悪性腫瘍におけるオーダーメイド医療」と題し、それぞれ医療の現場からオーダーメイド医療の実情を講演しました。

最後に、座長を務めた研究代表者の深尾彰教授が、会場の参加者と質疑応答を行いました。健康管理についてや研究内容に関する様々な質問が寄せられ、座長や演者が丁寧に回答していました。



慶應義塾大学医学部(鶴岡みらい健康調査)と協力体制を構築

山形県内では、本学で行っている「山形分子疫学コホート研究」のほか、庄内地区の鶴岡市において、慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学教室でも「鶴岡市民を対象とした地域コホート研究(鶴岡みらい健康調査)」を行っています。2012

年6月19日(火)に、今後コホート研究の実施にあたり、互いに協力することで、将来的にそれぞれの蓄積データを山形県民のために有効活用し、健康の実現に、より大きな貢献を果たしたいと考え、協力体制の覚書を交わしました。

中国、フツァン 復旦大学へ現地視察へ

昨年、交流協定を締結した中華人民共和国復旦大学との共同研究を進めるため、2012年2月13日(月)～15日(水)、山形大学より視察団が復旦大学を訪問しました。

今回の訪問では、現在行っているそれぞれのベースライン調査を踏まえて、体質と生活習慣などを集計した結果、共同研究を実施することが確認されました。今後は研究チームなどを編成し、研究を進めていくことになります。

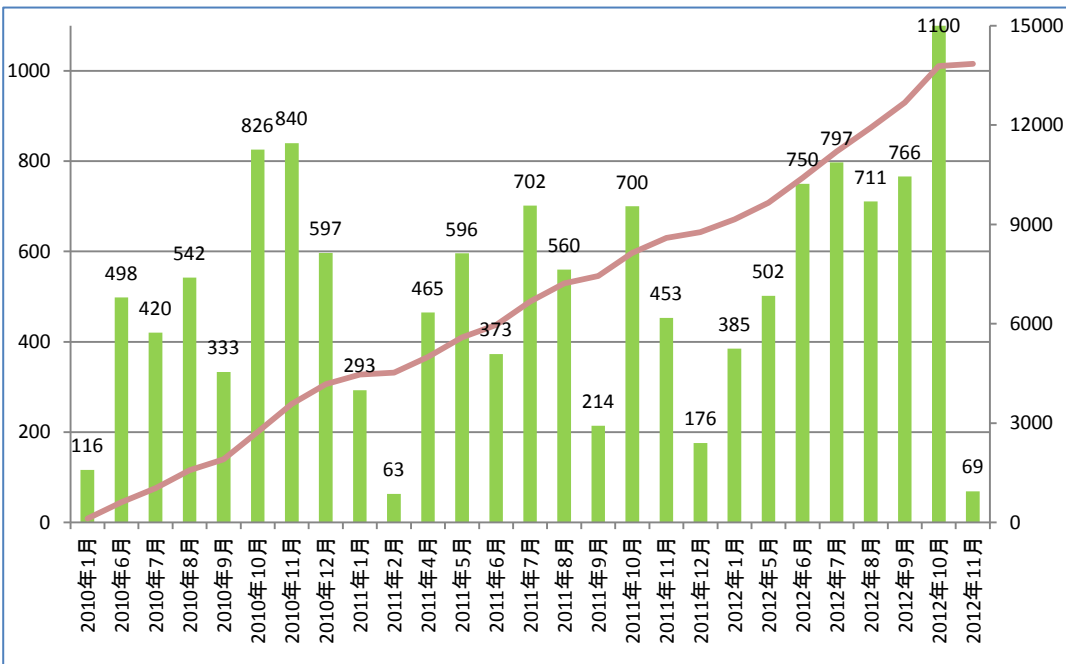


本研究のベースライン調査報告

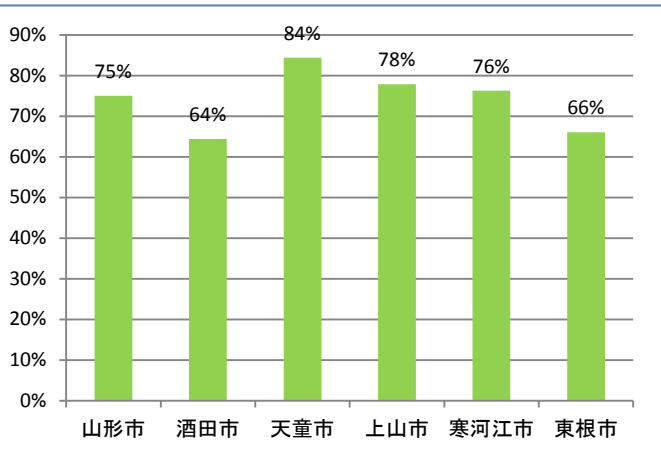
2012年11月9日現在 総協力者数 **13847人**

2012年度は山形市と酒田市の2都市でベースライン調査が行われました。おかげさまで山形市については、今年度をもって全ての会場に伺うことができました。

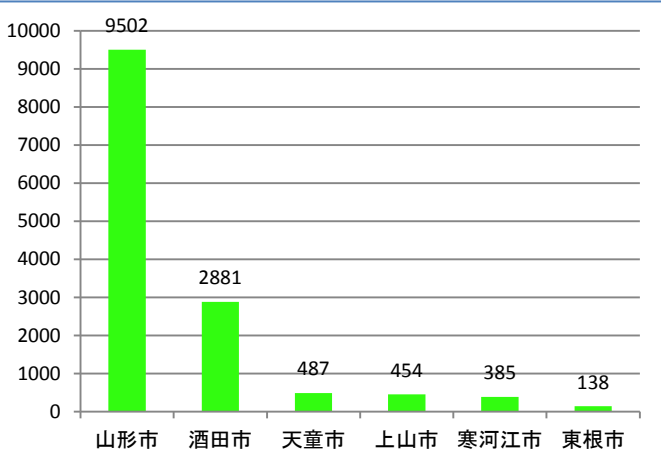
■研究協力者数(累計)



■研究協力同意率(都市別・累計)



■研究協力者数(都市別・累計)



主な活動

5/7(月) 2012年度ベースライン調査／酒田市開始。※★はベースライン調査

5/7(月)-14(月) 若浜コミセン／酒田市★

5/15(火)-17(木) 港南コミセン／酒田市★

5/22(火)・23(水) 南遊佐コミセン／酒田市★

5/24(木)・25(金) 酒田市民健康センター／酒田市★

6/4(月) 2012年度ベースライン調査／山形市開始

6/4(月)-8(金) 鈴川コミセン／山形市★

6/4(月)・5(火) 北平田コミセン／酒田市★

6/11(月)-13(水) 印役公民館／山形市★

6/14(木)・15(金) 高原公民館／山形市★

6/18(月) 入宿公民館／山形市★

6/19(火)-26(火) 鈴川交流センター／山形市★

7/2(月)-6(金) 大郷コミセン／山形市★

7/2(月)・3(火) 中平田コミセン／酒田市★

7/9(月)・10(火) 船町多目的集会所／山形市★

7/9(月)-11(水) 北部農民センター／酒田市★

7/12(木)・13(金) 上田コミセン／酒田市★

7/17(火)-19(木) 新堀コミセン／酒田市★

7/20(金)・24(火) 元木公民館／山形市★

7/23(月) 土坂公民館／山形市★

7/25(水)-27(金) 南原公民館／山形市★

7/30(月)-8/3(金)、20(月)-24(金) 滝山コミセン／山形市★

8/6(月)-7(火) 東沢小学校／山形市★

8/8(水)-10(金) 東沢コミセン／山形市★

8/17(金) 宝沢中央公民館／山形市★

8/25(土) すこやか教室in川西町：川西町大塚地区交流センター／演題[がん検診の活用]

8/29(水)-31(金) 吉原集会所／山形市★

9/3(月)-6(木) 沼木公民館／山形市★

9/3(月)-5(水) 明治コミセン／山形市★

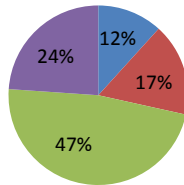
9/10(月) すこやか教室in寒河江市：寒河江市役所ハートフルセンター／演題[生活習慣病はメタボリックだけでない。知っていますかCOPD(慢性閉塞性肺疾患)?]



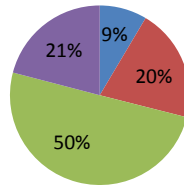
■都市別の同意者(年代別の割合)

- 40歳代(40-49歳)
- 50歳代(50-59歳)
- 60歳代(60-69歳)
- 70歳代(70-74歳)

山形市



酒田市



9/7(金)-14(金) 南沼原コミセン／山形市★

9/18(火)・19(水) 西部公民館／山形市★

9/20(木)・21(金) 山寺コミセン／山形市★

9/25(火) 千手院多目的集会所／山形市★

9/26(水) 下谷柏公民館／山形市★
県立鶴岡南高等学校出張講義

9/27(木) 上谷柏生活改善センター／山形市★

9/28(金) 片谷地公民館／山形市★

10/1(月)-9(火) 南山形コミセン／山形市★

10/9(火) すこやか教室in寒河江市：寒河江市役所ハートフルセンター／演題[身近な目の病気(白内障・加齢黄斑変性症など)]

10/10(水) 津金沢生活改善センター／山形市★

10/11(木)・12(金) 新開集会所／山形市★
10/11(木) すこやか教室in高島町／演題[膝痛・腰痛予防]
県立酒田西高等学校出張講義

10/15(月)-18(木) 楯山コミセン／山形市★

10/19(金) 青野公民館／山形市★

10/22(月)・23(火) 上青柳集会所／山形市★

10/22(月)-29(月) 酒田市民健康センター／酒田市★

10/24(水) 下青柳集会所／山形市★

10/25(木) 隔間場公民館／山形市★

10/26(金) 菅沢公民館／山形市★
すこやか教室in舟形町：舟形町役場保健センター／演題[慢性腎臓病(CKD)について]

10/29(月)-31(水) 本沢コミセン／山形市★

11/8(木)・9(金) 農村環境改善センター／酒田市★

11/26(月) すこやか教室in舟形町：舟形町役場保健センター／演題[慢性閉塞性肺疾患(COPD)について]

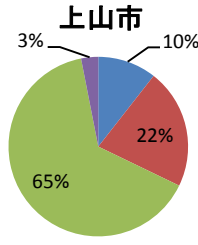
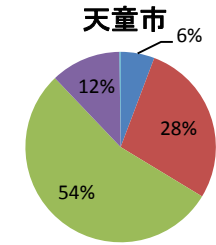
11/28(水) すこやか教室in川西市：川西市大塚地区交流センター／演題[元気に動けるからだをつくる]

11/30(金) すこやか教室in寒河江市：寒河江市役所ハートフルセンター／演題[認知症の正しい理解と予防について]

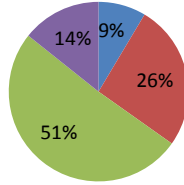
1/19(土) 酒田市民公開講座 開講(予定)

2月 すこやか教室in高島町／演題[肺の生活習慣病：COPD(慢性閉塞性肺疾患)]

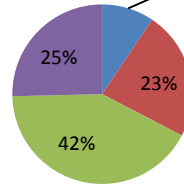
3月 すこやか教室in高島町／演題[知って得する生活習慣病予防の話]



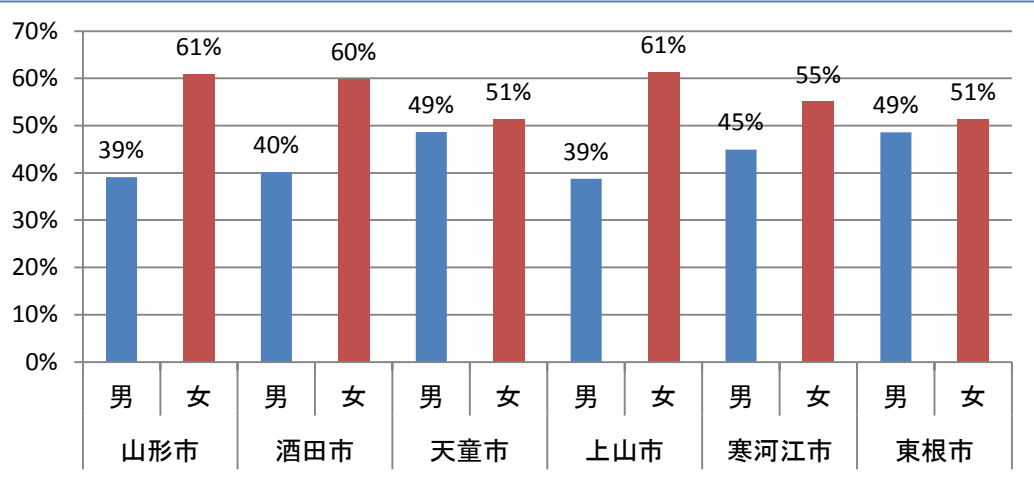
寒河江市



東根市



■都市別の同意者(男女別の割合)



ちよっといいいコラム～がんにならない食べ物

内科医の私が診療しているとよく患者さんから聞かれることがあります。「先生、がんにならないためにはどんな食べ物を食べればいいですか？」がんの治療をしている患者さんからも

「このがんに効く食べ物はありますか？」と聞かれることもあります。確かに、「これを食べればがんに効く！」とか「これ食べてがんが治った！」など、広告などで目にするような気がしますが、果たしてどこまでは科学的に信じられる話なのでしょうか？このコラムで考えてみたいと思います。

がんと食べ物の関係を明らかにするためには、私たちのやっているような「コホート研究」が最もいい方法です。健康な人を集めて、まず、食生活を調べます。例えば、コーヒーとがんの関係が知りたいければ、コーヒーをどれくらい飲むかあらかじめ調べておきます。それから、10年、20年後、コーヒーをたくさん飲む人と飲まない人のグループでそれぞれがんになった割合を比べます。もし、コーヒーを飲むグループの方ががんの割合が多ければ「コーヒーはがんと関係があるのかも！」ということになります。そして、その因果関係をはっきりさせるには、研究室での細胞を使うような実験や、動物実験などの結果もあわせて結論が得られることが実際には多いです。

さて、ではどんな食べ物を食べればがんにならないのでしょうか？

国立がん研究センターでは今までの研究をまとめて公表しています。

http://epi.ncc.go.jp/cgi-bin/cms/public/index.cgi/nccepi/can_prev/outcome/index

それを見てください。

まず、野菜とがんの関係を見ると食道がんでは罹患リスクが下がるという関係が「ほぼ確実」にあるようです。胃がんでは罹患リスクが下がる「可能性」があります。しかし、一方でほかのすべてのがんではデータが不十分でこれといったことが言えません。果物でみると食道がんでは罹患リスクが下がるという関係が「ほぼ確実」にあるようで、胃がん、肺がんでは罹患リスクが下がる「可能性」があるといえます。その他のがんと食事とをみても、罹患リスクが下がる関係が「ほぼ確実」にあるのはコーヒーと肝がん、上がる関係が「ほぼ確実」にあるのが熱い飲食物と食道がん、食塩と胃がんです。

実はこれだけなんです。実はそれほど分かっていないのが実情です。それにはいろいろな理由があると言われていますが、私はがんの発症にかなりの部分関係していると考えられる遺伝的素因、すなわち体質の関係を今までの研究では考慮することができなかったことが大きいのではと考えています。

今後、新しい発見が山形分子疫学コホート研究から出て行くことを期待しますが、当面は当たり前といえば当たり前ですが、「いろいろな食べものをバランスよく」ということに尽きるでしょう。いろいろな食べ物を食べるによりよしも、「リスクを分散」することができます。例えば、ある食べ物にがんに関係するような今まで分かっていない物質が入っていたとしても、たくさんいろいろな食べ物を食べることによって、多くの量を日常的に取ることを避けることができます。(もちろん、ほかにもいろいろな利点があります。)

現時点では、「健康に王道はなし」です。

成松宏人(先端分子疫学研究所 准教授)

ゲノムコホート医学教育プログラム～コホートベースライン調査に参加して

今年度から開始された教育プログラムの一環として、帝京大学大学院2名の大学院生と山形大学医学部3年の5名の学部生が、山形市内で実施されたベースライン調査に参加しました。代表して、3名の方から参加しての感想をいただきました。

はじめまして、帝京大学公衆衛生大学院の1年生の高辻由布子です。私は、現在、弁護士業務のかたわら、大学院で医療について学んでいます。今年の8月には、山形大学に実習生として1週間滞在し、成松宏人先生の指導のもと「山形分子疫学コホート研究」に参加させていただきました。実習では、山形県民の皆様へ、ゲノム解析研究のご説明や研究協力に際してのインフォームド・コンセントを行いました。

私は、母親がいわゆる難病であることから、ゲノム解析を通して、患者さんが自分の「体質」を知り、病気予防に役立てたり、より早く病気が治せることができる未来が来ることを心から願っています。

私も弁護士という職業柄いろいろな人々にお会いするのですが、山形の皆さんは本当に人柄の良い方が多く、私自身お話しして皆さんから元気をいただくことが多かったです。おいしい野菜、岩がき、おそば、お酒、そして広い空。折良く、花笠祭りのシーズンに重なったので、お祭りも楽しむことができ、健康というのは、「環境」も大切だなあと考えた夏でした。今回は、いも煮に挑戦できなかったのですが、次回、山形に戻ってきたときは是非挑戦したいと思います。ありがとうございました。

帝京大学大学院 医学研究科社会医学専攻
(衛生学公衆衛生学)高辻由布子

2012年8月6～10日の5日間、研修をさせていただきました。石黒彩です。私は昨年度まで病院で研修医として働いていましたが、今年度から大学院で公衆衛生分野の研究をしていこうと勉強を始めたばかりです。そのため、大規模コホート研究を実際に見てみたい、参加させていただきたい、というのがこの研修に参加させていただいた動機でした。

実際に参加してみると、研究の説明を行い同意書をいただくという過程をすべての参加者一人一人に行っているという丁寧さに、事前に説明を受けていたものの驚きがありました。しかし、参加者の方々が一生懸命話を聞いて下さり、たくさんの方が参加してくださるその姿勢を目の当たりにし、説明の大切さをすぐに実感しました。

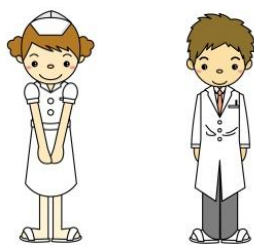
今後自身の研究を進めるにあたって、研究にボランティアで参加してくださる方がいるから研究が成り立つということ、参加者の方に研究成果をお返しできるような研究を行いたいということを深く感じた研修でした。

最後に、今回の研修中に運よく花笠祭りに参加することができ、また美味しい食事をたくさんいただけたことも、楽しかった思い出の一つです。本当にありがとうございました。

帝京大学大学院 医学研究科社会医学専攻
(衛生学公衆衛生学)石黒 彩

私が初めて山形大学グローバルCOEを知ったのは去年の夏であった。既に1万人近くの研究協力者を得ており、全国的に見ても非常に良い成果を挙げているということに衝撃を受け、自分の大学について全く知らなかった自分を少し恥ずかしくも思った。この研究をよく知るため、今回公衆衛生講座の研究室研修に参加した。実際に健診会場に赴き感じたことは、大きなプロジェクトであるが行っていることは非常に地道であるということ。今現在1万2千人以上の研究協力者がいるが、1日に得られる協力者数は50人程度ということに驚いた。健診に来られる多くの方が非常に協力的で、なかなか同意が得られないゲノムコホート研究でありながら研究への同意率が75%と高値であることからも、山形の人はとても心が温かいのだなという印象を受けた。また同意率が高い背景には地域の人のびとと山形大学や医療との間に深く信頼関係が成り立っているからではないかと思った。こういった信頼関係は昔から築き上げられてきたもので、またこういった研究を通してより一層関係が深くなれば、この研究がさらに意味のあるものになると思う。この研究の成果の恩恵が得られるのは、おそらく私達学生が医師として働いているときになるだろう。その際に地域の人のびとにこの恩恵を還元できるように、今後一層勉学に励んでいきたいと思う。このような貴重な体験をさせていただきありがとうございました。

山形大学医学部 3年 加藤竜平



次年度より、本研究の所属が「グローバルCOEプログラム先端分子疫学研究所」より「ゲノムコホート医学教育プログラム」に変わります。

これまで実施してきた「山形分子疫学コホート研究」と研究内容は変わりません。引き続き、ご協力よろしくお願いたします。

資料の請求やメルマガ登録各種お問い合わせについて

●資料請求について 山形分子疫学コホート研究通信(コホート通信)Vol.1/山形ロハス・メディカル/新聞広告(研究紹介・シンポジウム報告)/リーフレット(庄内版)/研究計画書などをお送りしています。ご希望の方は下記までご請求ください。

●メルマガ登録について 月に一度メルマガ配信を行っています。下記メールアドレス宛に「メルマガ希望」と明記のうえ、メールをお送りください。

●各種お問い合わせについて 研究についてのご質問・お問い合わせは下記までご連絡ください。



編集後記

今年6月、コホート研究の研究協力者が10000人突破し、その活動などが、幾度かメディアなどにも取り上げられるようになりました。あれから数か月が経ち、現在さらに13847人まで協力者数は増えています。なかなか同意を取るのが難しいと言われているこの研究ですが、なぜ山形では、多くの同意を得られるのでしょうか。皆さん、ご存じのとおり、山形は3世代同居率が最も高い県です。祖父母は孫たちの将来を考え、子や孫たちは祖父母の健康を考える。共に生活する身近な家族だからこそ、そんな気持ちが強いのかもかもしれません。実際、会場でも「孫のためになるなら…」とおっしゃる方も少なくありません。それが、この有難い同意率の高さにつながっているのではないかと思う今日この頃です。(Y.A)

山形大学 グローバルCOEプログラム 先端分子疫学研究所 コホート管理ユニット

〒990-9585 山形県山形市飯田西2-2-2 TEL:023-628-5256 FAX:023-628-5197

〒998-8501 山形県酒田市あきほ町30 日本海総合病院内 TEL:0234-28-8262(酒田分室)

受付時間:午前9時-午後5時(土日祝日は除く) e-mail: yamagatacohort@mws.id.yamagata-u.ac.jp